



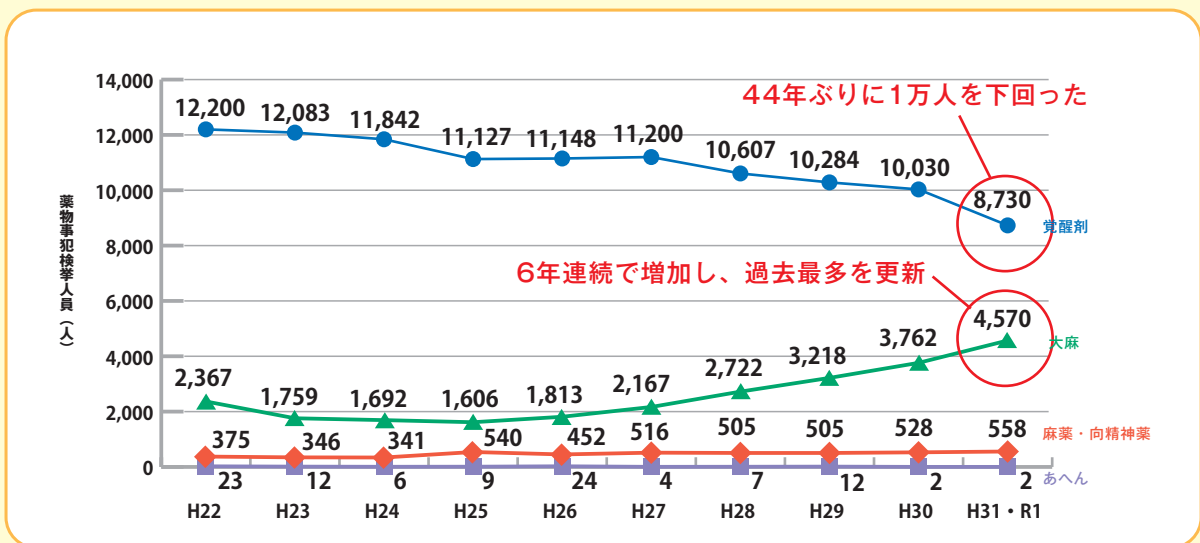
第4章 薬物乱用と健康

薬物乱用って どういうことだろう？



日本における薬物乱用の実態を知ろう！

薬物乱用とは、覚醒剤などの禁止されている薬物やシンナーなどの化学物質を不正な目的や方法で使用することです。また、医薬品の本来の治療目的からはずれた用法、用量での使用も薬物乱用です。一度だけでも「乱用」です。



- 近年、覚醒剤事犯の検挙者数は減少傾向にありますが、大麻事犯の検挙者数は増加しており、平成31・令和元年における検挙者数は過去最大となっています。平成31年・令和元年における大麻事犯の検挙者数の43.9%が20歳代であり、20歳未満の者も13.5%を占めています。大麻は脳に影響を与える違法な薬物であり、間違った情報に流されず、正しい知識で判断することが大切です。
- 大麻について「海外では合法な国があるから安全だ」という主張を耳にすることがあるかもしれませんが。法律などの規則はそれぞれの国の事情や背景をもとに作られているため、合法だから大麻は安全ということではありません。大麻が合法な国でも、大麻の有害性の影響を大きく受ける未成年の所持や使用は禁じられています。

		H27	H28	H29	H30	H31・R1
覚醒剤事犯	全年齢	11,200	10,607	10,284	10,030	8,730
	20歳代	1,437 (12.8%)	1,301 (12.3%)	1,241 (12.1%)	1,187 (11.8%)	1,054 (12.1%)
	19歳以下	119 (1.1%)	136 (1.3%)	93 (0.9%)	98 (1.0%)	97 (1.1%)
	うち中学生 うち高校生	3 24	2 32	2 53	7 74	6 110
大麻事犯	全年齢	2,167	2,722	3,218	3,762	4,570
	20歳代	905 (41.8%)	1,026 (37.7%)	1,218 (37.8%)	1,573 (41.8%)	2,007 (43.9%)
	19歳以下	144 (6.6%)	211 (7.8%)	301 (9.4%)	434 (11.5%)	615 (13.5%)
	うち中学生 うち高校生	3 24	2 32	2 53	7 74	6 110



乾燥大麻の他に、大麻から成分を抽出した「大麻リキッド」や「大麻ワックス」など新しいタイプの加工品の摘発も増加しています。

「第五次薬物乱用防止五か年戦略」フォローアップ（令和2年7月10日公表（薬物乱用対策推進会議））

乱用される薬物は、いずれもとても危険な薬物です！



乱用される薬物を見てみよう！

●薬物は大切な脳の働きを変えます。 ●依存という“やめられない”状態になります。

●覚醒剤

中枢神経が興奮し、気分が高揚して、疲労がとれたように感じますが、薬がきれるとその反動で、強い疲労感や倦怠感、脱力感が襲ってきます。繰り返し使用していると中枢神経に異常をきたし、幻覚や妄想を伴う覚せい剤精神病になります。大量に摂取すると死んでしまうこともあります。



●シンナー等有機溶剤

急激に酩酊状態となり、大量に摂取すると、呼吸困難に陥り死に至ります。情緒不安定、無気力となり、幻覚や妄想が現れて、有機溶剤精神病になります。

●大麻(マリファナ)

感覚が異常になり、幻覚や妄想が現れます。乱用を続けると無気力になります。生殖機能の低下、月経異常を引き起こすとの報告もあります。また、海外ではチョコレートやクッキー、キャンディなどの中に大麻が含まれている製品が売られていることがあります。誤って口にして体調不良で救急搬送された事例も発生しているので十分に注意しましょう。



●MDMA

覚醒剤とほとんど同じ作用とLSDのような幻覚作用があります。急性中毒で、死んでしまうことがあります。



●ヘロイン

落ち着いたような気分を味わいますが、薬がきれると嘔吐や痙攣などの激しい退薬症状(離脱症状)に襲われます。大量に摂取すると、呼吸困難に陥り、死んでしまうこともあります。



●危険ドラッグ

覚醒剤、麻薬、大麻等と同様の危険性が指摘されている薬物。



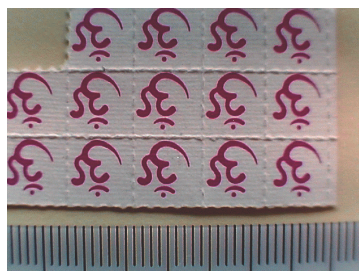
●コカイン

覚醒剤とほとんど同じ作用を示しますが、効果が迅速で強烈です。大量摂取すると痙攣発作が繰り返し起こり、死んでしまうこともあります。幻覚や妄想が現れて、コカイン精神病になります。



●LSD

幻覚が現れます。色彩感覚が麻痺し、空間が歪んだような感覚に襲われます。転落などの事故死の原因になります。



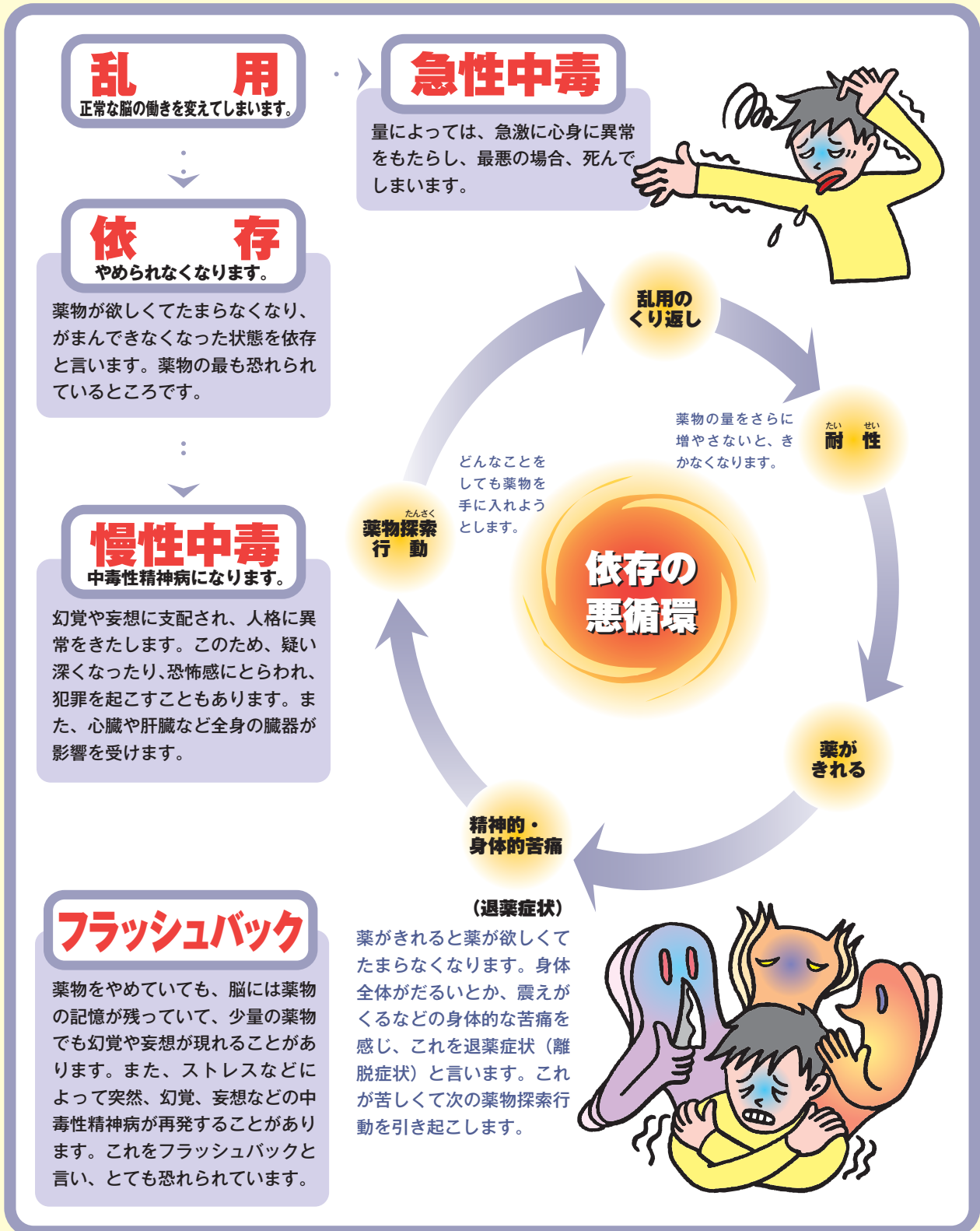
●薬物は別の呼び名(隠語)で呼ばれている場合があります。

- 覚醒剤
(スピード、エス、シャブ)
- 大麻
(チョコ、ハッパ、ハッシシュ)
- シンナー
(アンバン、ジュントロ)
- MDMA
(エクスタシー、エックス、バツ)

(写真：関東信越厚生局麻薬取締部 近畿厚生局麻薬取締部)



薬物乱用の悪循環を知ろう!





薬物乱用によって こんなことにも!

薬物乱用の社会的影響

家庭問題

- ①生活の乱れ
- ②家庭内暴力、家庭の崩壊など

友人問題

- ①けんかを起こしやすくなり、友人、知人から離れ、孤立
- ②薬物乱用仲間の形成

学校での問題

- ①欠席、学習不適應
- ②校内暴力
- ③他の生徒への薬物乱用の拡がり

犯罪

- ①薬物を手に入れるために起こす恐喝や窃盗などの事件
- ②乱用した薬物の作用に基づく凶悪な犯罪
- ③暴力団の資金源となり、健全な社会を阻害

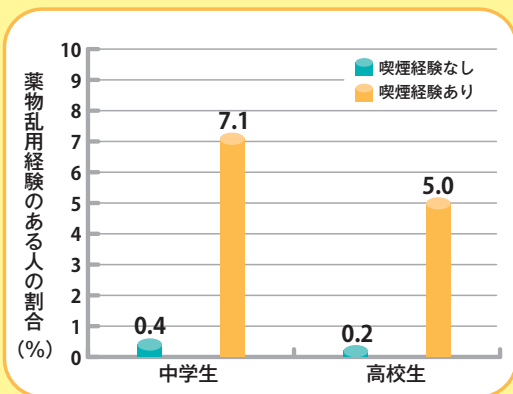


column

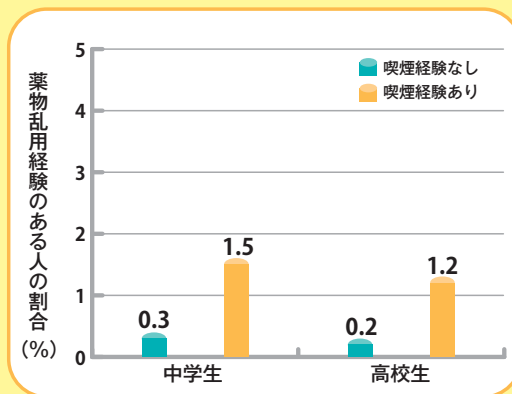
未成年者の喫煙、飲酒はゲートウェイ

喫煙や飲酒経験のある中学生や高校生で薬物乱用経験のある生徒の割合は、喫煙や飲酒経験のない生徒で薬物乱用経験のある生徒の割合よりも高く、特に、喫煙経験のある生徒で顕著に高くなっています。日本の薬物依存患者を対象とした研究では、薬物乱用の第一段階は、喫煙や飲酒であり、その後、違法な薬物に移行していくことが示されており、喫煙や飲酒は違法薬物乱用のゲートウェイ（入り口）であり、たばこやアルコールは「ゲートウェイドラッグ」と呼ばれています。

喫煙経験別にみた薬物乱用経験の割合



飲酒経験別にみた薬物乱用経験の割合



(嶋根ら2018)



薬物乱用に対する社会的対策を知ろう！

薬物乱用は法律で厳しく取り締まられています。



見たことがありますか？

日本では、政府全体で薬物乱用問題に取り組むため、平成30年度からは「第五次薬物乱用防止五か年戦略」を立ち上げて取り組んでいます。



(麻薬・覚せい剤乱用防止広報啓発キャラバンカー)



(麻薬探知犬)



(令和元年度 文部科学大臣賞 受賞作品 (ポスター))



(令和元年度 文部科学大臣賞 受賞作品 (映像))



薬物乱用 Q & A

Q1 一度だけなら大丈夫って聞きましたが……？

A 絶対にそんなことはありません。一度でも乱用すると、依存症になってしまう危険があります。一度でも死んでしまうこともあります。

Q4 大麻って身体に害はないって本当ですか？

A 大麻に含まれる成分（テトラヒドロカンナビノール）は、脳に影響を及ぼします。乱用により、時間や空間がゆがんだり、集中力がなくなったり、情緒が不安定になったりします。乱用を続けると何もやる気がしない状態や知的機能の低下などが引き起こされます。

Q2 覚醒剤はダイエットや勉強に良いって本当ですか？

A 絶対にそんなことはありません。覚醒剤は、一時的に心身をだまして食欲をなくすだけで、作用がなくなると異常に食欲が強くなります。覚醒剤を乱用すると、依存症や中毒になり、心身に悪い影響を与えます。もちろん疲れがとれたり、勉強に良いなどということは、絶対にありません。

Q5 薬物をすすめられたらどう対処すれば良いですか？

A きっぱり『いやだ』と言いましょ。『友だちに嫌われるから』と思っても、はっきり『NO!』と言うべきです。友だちからどう思われても、自分の心身、自分の一生を大切にしましょう。危険な場所・場面に近づかない、危険を感じたら立ち去ることが大切です。少しでも危ないと思ったら、“きっぱり断る”“逃げる”勇気をもちましょ。

Q3 一度依存症になるともう治らないのですか？

A 一生、やめ続けなければもとに戻ってしまいます。依存症に治るという言葉はありません。何年やめていても再び乱用してしまえばもとの状態に戻ってしまいます。一生やめ続けることが必要です。

Q6 薬物の問題で助けて欲しいときは？

A 担任や養護教諭、家族、警察などに相談しましょ。薬物を乱用している友だちのことや、薬物をすすめられたりした場合は、一人で悩まず、きちんと助けを求めることが大事です。まわりの信頼できる大人に相談しましょ。

もっと詳しく知りたい人は、下のホームページを見てみましょう！
公益財団法人 日本学校保健会 <http://www.hokenkai.or.jp/3/3-1/3-1.html>